

## 論文審査の要旨

報告番号	乙 第 2934 号	氏名	近藤 圭祐
論文審査担当者	主査 小口勝司 教授 副査 泉崎雅彦 教授 副査 小風 暁 教授		
(論文審査の要旨)			
<p>本論文は、ミダゾラム (MDZ) 静脈投与による歯科麻酔における至適鎮静用量を検索したものである。</p> <p>健康成人男性 10 名を対象に MDZ 静脈投与試験を行った。口腔内への作用として、開口量、唾液分泌量、嘔吐反射測定を行い、主観的評価は Visual Analogue Scale (VAS)、客観的評価は聴覚誘発モニター (AEP モニター) を用い、それぞれの評価項目と MDZ の累積投与量、および血中濃度についての相関性の検討をした。</p> <p>累積投与量が 0.04 mg/kg より開口量と嘔吐反射が、0.05 mg/kg より唾液分泌量が減少した。VAS は累積投与量が 0.06 mg/kg において鎮静作用発現のピーク値を示し、AEP モニターは 0.06 mg/kg をピークとして至適鎮静状態を示す値は増加したが、それ以降の MDZ 投与量増加では至適鎮静状態を示す値の減少を認めた。</p> <p>以上より、歯科治療における MDZ を用いた静脈内鎮静法を安全かつ有効に行う一括投与量は 0.05~0.06 mg/kg が適していることが明らかとなった。この新知見は、学術上価値のあるものであり、学位に値するものと判断した。</p>			
論文題名： 歯科臨床におけるミダゾラムを用いた至適鎮静用量の客観的・主観的評価 掲載雑誌名：昭和学会雑誌 第 75 巻 第 6 号 (平成 27 年 12 月) 掲載予定			

(主査が記載、500 字以内)